

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和元年度 第 1 回相模原市地域福祉推進協議会			
事務局 (担当課)	健康福祉局 福祉部 地域福祉課 電話 042-769-9222(直通)			
開催日時	令和元年 5 月 2 3 日 (木) 午後 2 時 3 0 分 ~ 午後 4 時			
開催場所	けやき会館 3 階 セミナールーム 1			
出席者	委員	1 2 人 (別紙のとおり)		
	その他	2 人 (市社会福祉協議会職員)		
	事務局	6 人 (福祉部長、地域福祉課長他 4 人)		
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数 0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第	1 開 会 2 議 題 (1) 相模原市地域福祉推進協議会の部会について (2) 施策の方向性について 3 その他 4 閉 会			

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局等の発言)

1 開会

2 議題

(1) 相模原市地域福祉推進協議会の部会について

成年後見制度利用促進基本計画及び再犯防止推進計画の内容について、専門的に調査審議を行うため、平成31年4月1日から、新たに部会を設けることとしたことについて、事務局より説明を行った。

部会員については、江崎委員、江藤委員、小野委員、志方委員、田中委員、渡辺委員の6人が選出された。

(2) 施策の方向性について

○第4期地域福祉計画の基本目標と施策の方向性は、基本的に第3期地域福祉計画を継承しているので大きな問題はない。ただ、基本目標は当たり前のことを書いているだけで、問題はその取組を誰がどのように行うかである。誰が推進して、誰が声をかけて進めていくのかがわからない。地域がやるのが、行政がやるのか、それが見えてこない。役割が見えるように、これまでの計画よりも進めてほしい。過去に地域での活動について、行政に相談したときも、部署間でどちらがやるのかで争って、結局何もしてくれなかった、ということがあった。計画に定める目標は立派だが、何もやらないということでは困る。

御意見はごもつともである。部署間でぶつかり合ったり、どちらが担当するのか譲り合ったりして、その課題に取り組まないケースがある。この計画の中で、はっきり決まったことを表現できるかどうかは難しい面があるが、できるだけ御意見を反映したいと考えている。

そういう方向性で進めてもらえばよい。

第4期地域福祉計画の策定にかかるアンケートを見たが、よくまとまっていると思う。せっかく集めたこの意見を計画に落とし込まなければアンケートを取った意味がない。確認のために伺うが、今日示された策定イメージの中に、このアンケートから分析した結果をどのように反映したのか。

アンケートの結果、多くの施策について、市民が知らないということが明らかになった。その結果を踏まえて、施策や取組について知っていただくことが重要であると考え、事務局では、施策の方向性の1番目として、「福祉について、知る、学ぶ機会を充実します。」を据えた。どのような取組が行われているか、もっと明らかにしていきたい。福祉サービスへの評価についても、第3期地域

福祉計画の評価とは乖離があることがわかったので、第4期地域福祉計画の目標設定においては、アンケートの結果を踏まえて進めていきたい。

立場上、様々な会議に出席しているので感じるが、それぞれの会議に出席している方は一生懸命取り組んでいる。しかし、会議に出席していても、その会議が市全体でどういう位置づけにあるかがわかっていない。おのおのが役割分担を理解しないと、会議ごとに取り組むべき内容がぼやけてしまうのではないかと感じている。

市の所属で組織する会議には多くの部署が参加しており、今回お示しした資料の内容を把握している。今回の資料では見えていないが、施策の方向性に基づく取組については、各部署から意見を得て、漏れがないように体制を整えている。

今までの議論を聞いていて、改めて感じるが、市で策定する他の計画は具体的に取り組む内容が明確になっている。しかし、地域福祉計画は内容がわかりにくいものになっている。それは、地域福祉は、生活そのものと関連があるからである。そのため、検討する際の視点を1つにすることもできないので、誰にも関わりがある計画だと思っている。市の地域福祉計画は、市社協が実際に地域で取り組むべきことの方向性を示すべきものであるので、ある程度理念的になるのはやむを得ないと思っている。

計画づくりを進める上では、課題や施策の方向性に漏れがないかどうかを議論してもらえればよいと思う。方向性や課題に漏れがなければ、それを踏まえて、地域福祉活動計画で具体的な取組を位置付けていきたい。

現在の計画である、第3期地域福祉計画の取組状況やそれに対する評価がないと、第4期の地域福祉計画の検討はできないと考える。各施策について誰が取り組むべきかという部分も、幅広く意見を聴きながら検討してもらいたいと考えている。

関係づくりの中で、住民同士の支え合いが出てくるが、行政と住民同士が支え合えるような関係づくりが必要と考えている。以前に自治会として活動した際にも、行政は地域の活動を支援してくれなかった。行政の側に、地域をどうやって支えていくのかという視点が欠けているのではないかと思う。だから、行政は縦割りだと言われてしまう。

策定イメージは示されたが、その前に、今の相模原市の現状を示すような文章があればよいと思う。高齢化が進んでいるとか、人口が減少しているとか、そういったものを加えてほしい。

人材づくりの施策の方向性を見ると、文末に取り組みます、とあるが、実際にボランティアの育成に励んでいるものの、ボランティアの数は年々減少している。

実際にはどのように進めればいいのか頭を抱えている。

これから地域活動を担う人材を確保しようとする場合、様々な発想を持たないとなかなか集まらない。大切なことは、中学生をどう巻き込むかである。できるだけ早いうちに声をかける仕掛けが必要である。

カナダの姉妹都市に行ったら、高校生くらいの子が施設を案内してくれたことがあった。若いうちから社会のための活動について、理解を深めようと取り組んでいた。

市社協で中学校に出張して福祉講座を開催しているが、実はこれも縦割りである。中学校では開催しているが、高校ではやっていない。なぜかと言うと中学校は市立で高校は県立だからである。中学校で少しでも実践しただけというのではもったいない。中学生のうちに福祉への理解を深めるのは賛成だが、その取組は高校でも実践してほしい。

市が取り組む自殺対策とこの地域福祉計画に関連はあるか。

説明の中で、第4期の地域福祉計画は再犯防止推進計画の内容を盛り込むと説明したが、自殺に至る方は、地域の中でのつながりがないという状況があると考えるので、施策の方向性についても、罪を犯した方への支援と限定するのではなく、「すべての人が、社会において孤立することなく地域社会に参加することができるよう」という形で表現するなど、関連性を持たせている。

これから第4期の地域福祉計画を検討するが、今日示された資料では施策の方向性に基づく取組内容がわからない。

本日はご用意していないが、昨年度の取組状況について、現在、各部署に調査を行っている。調査結果をまとめて、次回の会議で報告する予定である。

計画には、目標、方向性、取組があるが、一番大事なものは具体的な取組であり、本日の資料で言えば、一番右側にある、基本目標にまたがる取組である。

基本目標にまたがる取組は、国が改正社会福祉法により、各自治体に求めている、包括的な支援体制の整備を、本市においてどのように取り組むかを示すものである。本市では、地区社会福祉協議会を中心に取り組みを進めていただいている福祉コミュニティ形成事業、コミュニティソーシャルワーカーの配置、地域福祉ネットワーク会議の3つの仕組みを組み合わせることで、包括的な支援体制を整備していきたいと考えているものである。

今日の会議では、施策の方向性までをお示ししたが、各委員の御発言どおり、今後は、施策の方向性に基づき実施する、具体的な取組を加えて御議論いただけるよう準備するとともに、第3期地域福祉計画の結果や評価を行い、第4期の計画策定を進めて行きたいと考えている。

3 その他

次回開催日は後日調整することになった。

4 閉会

相模原市地域福祉推進協議会委員 出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	小野 敏明	特定非営利活動法人日本地域福祉研究所 田園調布学園大学名誉教授	会 長	出席
2	原 和教	相模原市高齢者福祉施設協議会		欠席
3	鈴木 純恵	相模原市障害福祉事業所協会		出席
4	吉岡 輝明	相模原市私立保育園・認定こども園園長会		出席
5	戸塚 英明	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会		出席
6	森川 哲郎	相模原市自治会連合会	副会長	出席
7	飯沼 守	相模原市地区社会福祉協議会		出席
8	原 裕子	相模原市民生委員児童委員協議会		欠席
9	石関 清美	特定非営利活動法人相模原ボランティア協会		出席
10	渡辺 幸雄	公募市民		出席
11	箱山 京子	公募市民		欠席
12	江崎 智彦	神奈川県弁護士会		出席
13	田中 和亜	公益社団法人 成年後見センター・ リーガルサポート 神奈川県支部		出席
14	志方 洋一	公益社団法人 神奈川県社会福祉士会		出席
15	江藤 博之	相模原市保護司会協議会		出席